

那覇空港周辺測定結果

1 概要

那覇空港周辺における各測定局の配置状況を図N 1に、測定結果の概要を表N 1に示す。

各測定局における環境基準の類型指定状況は、4局中、類型 が3局、類型 が1局となっている。

なお、平成15年度末に、喜屋武局を廃止し、新たに糸満局を新設した。

2 測定結果

(1) WECPNLについて

測定期間内におけるWECPNLを表N 1及び図N 2に示す。

那覇浄化センター局と具志局で、前年度より増加しており、与根局(73.0)と具志局(71.6)で環境基準値を超過した。

なお、環境基準値を超過したのは、前年度と同じ測定局であった。

(2) 1日あたりの騒音発生回数について

1日あたりの騒音発生回数を表N 1及び図N 3に示す。

平成15年度末に新設した糸満局を除く3局で、前年度より減少した。

(3) 月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数について

月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数を図N 4に示す。

具志局と与根局においては、ほぼ毎月、環境基準値を超過し、1日あたりの騒音発生回数も具志局と与根局で多く、11月には、与根局で186.4回/日を記録した。

(4) 月別の平均ピークレベルと最大ピークレベルについて

月別の平均ピークレベル(dB)と最大ピークレベル(dB)の状況を図N 5に示す。

平均ピークレベルは、糸満局を除く3局において、概ね70dBから80dBの間の値で推移していた。

最大ピークレベルは、具志局及び与根局で、毎月90dB以上を記録しており、平成17年2月には、与根局で107.2dBを記録した。

(5) 曜日別の騒音発生回数について

曜日別の平均騒音発生回数を表N 2及び図N 6に示す。

土曜日と日曜日の発生回数は、やや少ない傾向を示すが、嘉手納・普天間飛行

場ほどの大きな差異は見られなかった。

(6) 時間帯別の月平均騒音発生回数について

0時から7時(N1)、7時から19時(N2)、19時から22時(N3)、22時から24時(N4)の各時間帯における月平均騒音発生回数(回/月)を表N3に示す。

騒音の発生は、7時～22時の時間帯に集中しているが、深夜22時～早朝7時の時間帯においても観測された。

(7) 環境基準値の超過日数について

測定日数と環境基準値を超過した日数を表N4及び図N7に示す。

環境基準値超過率は、与根局(46.5%)と具志局(42.6%)で高く、与根局では359日中167日で環境基準値を超過した。

(8) WECPNLと1日あたりの騒音発生回数の年度推移について

WECPNLと1日あたりの騒音発生回数(回/日)の推移を図N8に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移しており、騒音発生回数は、那覇浄化センター局では、平成13年度まで減少傾向を示し、平成14年度に増加に転じたが、平成16年度に再び減少した。具志局では、平成13年度まで増加していたが、平成14年度以降、減少傾向にある。与根局においては、ほぼ横ばいで推移している。

3 まとめ

(1) 環境基準値を超過した測定局の割合は50%(4局中2局)であり、前年度と同じ測定局であった。

(2) 1日あたりの騒音発生回数は、わずかに減少した。

(3) 那覇空港周辺における平成16年度航空機騒音測定結果は、WECPNLの値がほぼ前年度並であり、与根局と具志局においては、依然として環境基準値を超過したことから、那覇空港から発生する航空機騒音は周辺地域住民の生活環境に対し影響を与えている。